

# 福島県における住民の健康管理

放射線健康管理担当参事官室

国は、福島県が県民の中長期的な健康管理を可能とするために必要な事業を中長期的に実施するために創設した「福島県民健康管理基金」に782億円の交付金を拠出し全面的に県を支援。

## 健康管理調査事業の全体像

### 概要・目的

- 福島県からの要望も踏まえ、原子力災害から子どもをはじめ住民の健康を確保するために必要な事業を中長期的に実施するための基金を県に創設。
- 福島県では、この基金を活用して、全県民を対象に被ばく線量や健康状態を把握するための健康診査等を実施。



### 実施体制



## 基金で行う健康管理の内容

### I. 県民健康管理調査

- 全県民(約202万人)を対象とした放射線影響の推定調査の実施。回収率23.5%, 99.8%以上が5mSv未満(最大25mSv)  
※行動調査を基に推計した震災後4ヶ月間の外部被ばく線量(μSv/h現在)
- 18歳以下の子ども(約36万人)を対象とした継続的な甲状腺超音波検査の実施。受診者数216,809人(H25.7.31現在)
- 避難住民等を対象とした健康状態を把握するための健康診査の実施
- 避難住民等を対象としたこころの健康度調査及び妊産婦に関する調査

### II. 安心・リスクコミュニケーション事業

- 子どもや妊婦に対する個人線量計の貸与
- ホールボディカウンター等の整備など検査体制の強化

### 今後の方針・スケジュール

- 国として、県民健康管理調査を引き続き支援していく。
- 加えて、検査結果のきめ細かなフォローを行うため放射線医学県民健康管理センター※を福島県立医大に整備。  
(※平成24年度予備費59.8億円)

# 県民健康管理（全県民対象）

線量を把握（基礎データ）

## 基本調査

対象者：平成23年3月11日時点での県内居住者  
方法：自記式質問票  
内容：3月11日以降の行動記録  
（被ばく線量の推計評価）

健康状態を把握

## 甲状腺検査（18歳以下の全県民（県外避難者含む）に順次実施）

内容：甲状腺超音波検査  
※3年程度で対象者全員の現状を把握し、その後は定期的に検査

## 健康診査（既存の健診を活用）

対象者：避難区域等の住民 及び 基本調査の結果必要と認められた方  
内容：一般健診項目＋白血球分画等

対象者：避難区域等以外の住民  
内容：一般健診項目

既存健診の対象外の県民への健診実施

こころの健康度・生活習慣に関する調査（避難区域等の住民へ質問紙調査）

妊産婦に関する調査（22年8月1日～23年7月31日の母子健康手帳申請者へ質問紙調査）

継続して管理

## 県民健康管理ファイル（仮）

基本調査や検査の結果を  
県民一人ひとりが記録・保管  
健康管理に関する知識の普及

## データベース構築

- ◆県民の長期にわたる健康管理と治療に活用
- ◆健康管理をとおして得られた知見を次世代に活用

・ホールボディカウンター  
・個人線量計

相談・支援

治療

# 甲状腺検査 1 (子どもたちの健康を長期的に身守ります)

県民健康管理調査

## 1 調査目的

チェルノブイリ原発事故では事故後4～5年後小児甲状腺がんの発生が報告されたことから、子供たちの甲状腺への放射線の影響が心配されています。そのため、現時点での甲状腺の状況を把握するとともに、生涯にわたる健康を見守り、本人や保護者の皆様に安心していただくため、平成23年10月より甲状腺検査を実施している。

## 2 実施計画等

(1) 対象者:平成23年3月11日に18歳までの全県民約36万人(県外避難者も含む)

- ・平成25年度までに一巡目を終了(先行調査:ベースラインの調査)。
- ・二巡目として、20歳までは2年に1回、20歳以降は5年に1回の頻度で実施(本格調査)。

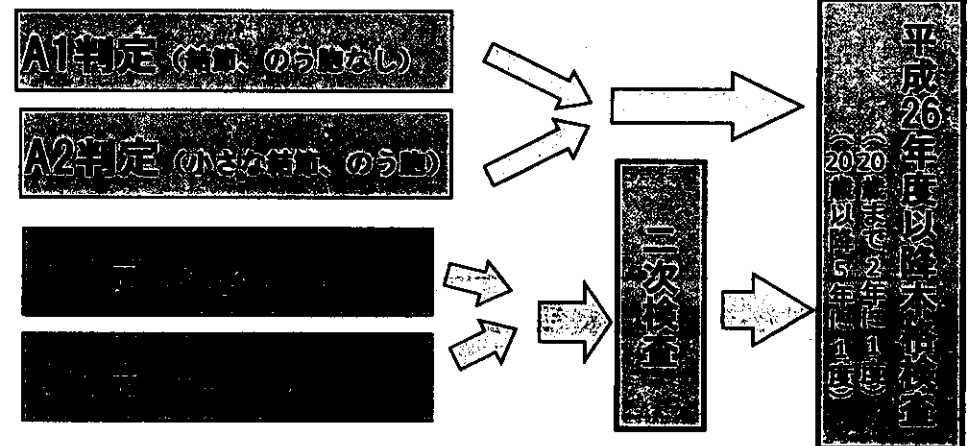
(2) 検査方法:

<一次検査> 甲状腺の超音波検査を実施

<二次検査> 一定以上の大きさの結節やのう胞等が認められた場合(B判定)や甲状腺の大きさや結節の形状から早めの検査が必要な場合(C判定)は、詳細な超音波検査、採血、尿検査、必要に応じて細胞診等を実施。



超音波検査



詳細調査  
内部被ばく関係

## 甲状腺超音波検査 ～一次検査実施状況～

■平成23年度～平成25年度 甲状腺検査(一次検査)実施状況

平成25年7月31日現在

県内検査機関での実施分

(平成25年7月31日現在)

	対象者数(人)	受診者数(人)	受診率(%)
H25年度実施対象市町村	44,993	39,927	3.0
H24年度実施対象市町村	163,264	133,942	82.0
H23年度実施対象市町村	47,766	39,497	82.7
合計	256,023	213,366	83.3

県外検査機関での実施分

(平成25年6月30日現在)

	県内検査未受診者 数(人)※1	希望者数(人)	受診者数(人)	受診率(%)
H24年度実施対象市町村	30,896	4,157	1,644	39.5
H23年度実施対象市町村	9,635	2,154	1,799	83.5
合計	40,531	6,311	3,443	54.6

※1 該当検査実施市町村において受診できなかった未受診者へのお知らせ発送分。

➡ 受診者数合計 216,809人

甲状腺超音波検査 ～一次検査結果 / 二次検査実施状況～

一次検査実施総数 <small>(H25年6月7日現在)</small>		H23年度		H24年度		H25年度		合計	
		人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
A判定	(A1) 結節や嚢胞を認めなかったもの	26,063	63.4	73,961	54.7	6,799	40.9	106,823	55.4
	(A2) 5.0mm以下の結節や20.0mm以下の嚢胞を認めたもの	14,803	36.0	60,259	44.6	9,721	58.4	84,783	44.0
B判定 5.1mm以上の結節や20.1以上の嚢胞を認めたもの		214	0.5%	952	0.7	113	0.7	1,279	0.7
C判定		0	0%	0	0%	0	0%	0	0%

二次検査実施状況 <small>(H25年7月31日現在)</small>		H23年度		H24年度		H25年度		合計	
		人数(割合)	人数(割合)	人数(割合)	人数(割合)	人数(割合)	人数(割合)		
一次検査実施者数		41,216人	135,536人	39,927人	216,809人				
二次検査実施者数		174人(81.3%)	594人(62.3%)	3人(2.6%)	771人(60.2%)				
がんないしがん疑い (がん / がん疑い / 良性)		14 (9 / 4 / 1)	30 (9 / 21 / 0)	-	44 (18 / 25 / 1)				

# 健康診査 1 (生活習慣病予防や様々な疾病の早期発見・早期治療につなげていきます)

## 1 調査目的

今回の東日本大震災とそれに続く福島第一原子力発電所事故により、国の警戒区域等に指定された区域に居住していた住民を中心に生活スタイルが今までとは全く異なるものとなったり、その食生活や運動習慣などの生活習慣にも大きな変化があったり、さらには、受診すべき健康診査も受けることができなくなるなど、自分の健康に不安を抱えている状況にあります。県民の健康管理を図るためには健康状態を把握し、生活習慣病の予防や疾病の早期発見、早期治療につなげていく必要があることから、避難区域等の住民の方々に健康診査を実施している。

## 2 実施計画等

### (1) 対象者

平成23年3月11日(震災時)に警戒区域、計画的避難区域、緊急時避難準備区域に指定された市町村及び特定避難勧奨地点の属する区域(以下「避難区域等」という。)に住民登録があった住民並びに基本調査の結果必要と認められた方

### (2) 健康診査の項目

0歳～6歳 (前学齢期幼児)	身長、体重、 血算(赤血球数、ヘマトクリット、ヘモグロビン、血小板数、白血球数、白血球分画)
7歳～15歳 (小学校1年生～中学校3年生)	身長、体重、血圧、 血算(赤血球数、ヘマトクリット、ヘモグロビン、血小板数、白血球数、白血球分画) [希望による追加項目] 血液生化学(AST、ALT、 $\gamma$ -GTP、TG、HDL-C、LDL-C、HbA1c、空腹時血糖、 血清クレアチニン、eGFR、尿酸)
16歳以上	身長、体重、腹囲(BMI)、血圧、 血算(赤血球数、ヘマトクリット、ヘモグロビン、血小板数、白血球数、白血球分画) 尿検査(尿蛋白、尿糖、尿潜血) 血液生化学(AST、ALT、 $\gamma$ -GTP、TG、HDL-C、LDL-C、HbA1c、空腹時血糖、 血清クレアチニン、eGFR、尿酸) ※下線部は、通常、特定健康診査では検査しない追加項目

# 平成23・24年度県民健康管理調査「健康診査」結果解析(抄)

肥満の割合(腹囲、BMI)は、女性の腹囲を除き、平成23年度に比較して平成24年度は低下したが、平成20～22年度に比較すると、依然高かった。

## ●BMI

BMI (男性)					
	受診者数(人)	平均年齢	平均値	≥ 25	< 18
H20	12,219	66.4	23.5	30.4%	2.0%
H21	12,333	66.7	23.5	29.6%	2.4%
H22	12,033	67.0	23.5	29.8%	2.5%
H23	3,267	65.6	24.5	41.9%	1.2%
H24	9,329	66.7	24.2	38.1%	1.5%

BMI (女性)					
	受診者数(人)	平均年齢	平均値	≥ 25	< 18
H20	14,996	65.9	23.5	31.0%	3.3%
H21	14,707	66.1	23.4	29.9%	3.2%
H22	14,275	66.2	23.3	28.1%	3.6%
H23	4,554	63.4	23.7	34.0%	3.3%
H24	12,645	64.8	23.8	33.4%	3.3%

## ●腹囲

腹囲(cm) (男性)				
	受診者数(人)	平均年齢	平均値	85cm以上
H20	9,492	66.4	84.8	49.0%
H21	9,501	66.7	84.9	48.7%
H22	9,247	67.0	85.0	49.0%
H23	2,588	65.6	86.9	59.3%
H24	7,393	63.3	86.5	57.0%

腹囲(cm) (女性)				
	受診者数(人)	平均年齢	平均値	90cm以上
H20	11,921	65.9	83.8	24.8%
H21	11,661	66.1	83.6	23.8%
H22	11,317	66.2	83.7	23.1%
H23	3,735	63.4	83.3	23.8%
H24	10,539	61.8	84.0	25.1%

# 平成23・24年度県民健康管理調査「健康診査」結果解析(抄)

糖代謝異常の割合(空腹時血糖、HbA1c、尿糖)は、平成23年度に比較して平成24年度は全般的に低下したが、平成20～22年度に比較して男性空腹時血糖、HbA1c高値の割合が依然やや高かった。

## ●空腹時血糖値

空腹時血糖値 (mg/dl)(男性)						
	受診者数(人)	平均年齢	平均値	110 mg/dl以上	130 mg/dl以上	160 mg/dl以上
H20	9,701	66.4	101.5	20.1%	6.9%	2.0%
H21	9,841	66.7	101.5	19.7%	6.9%	2.2%
H22	9,706	67.0	101.6	19.9%	6.8%	2.0%
H23	2,800	65.6	107.5	28.2%	11.5%	4.6%
H24	8,056	66.5	104.5	24.2%	9.1%	2.9%

空腹時血糖値 (mg/dl)(女性)						
	受診者数(人)	平均年齢	平均値	110 mg/dl以上	130 mg/dl以上	160 mg/dl以上
H20	11,828	65.9	97.5	13.3%	4.0%	1.2%
H21	11,615	66.1	96.8	12.2%	3.7%	1.2%
H22	11,294	66.2	96.8	12.2%	3.6%	0.9%
H23	3,935	63.4	100.1	15.8%	5.2%	2.1%
H24	10,802	64.6	98.5	13.9%	4.4%	1.2%

## ●HbA1c

HbA1c (%) (JDS)(男性)						
	受診者数(人)	平均年齢	平均値	6.5%以上	7.0%以上	8.0%以上
H20	12,217	66.4	5.1	4.1%	2.4%	0.8%
H21	12,290	66.7	5.1	4.5%	2.6%	1.1%
H22	12,031	67.0	5.1	4.4%	2.4%	0.9%
H23	3,268	65.6	5.2	7.0%	4.3%	1.9%
H24	9,325	66.7	5.2	5.1%	2.8%	1.3%

HbA1c (%) (JDS)(女性)						
	受診者数(人)	平均年齢	平均値	6.5%以上	7.0%以上	8.0%以上
H20	14,994	65.9	5.1	2.9%	1.7%	0.7%
H21	14,705	66.1	5.1	2.8%	1.6%	0.6%
H22	14,272	66.2	5.1	2.7%	1.6%	0.7%
H23	4,554	63.4	5.1	3.4%	2.2%	1.0%
H24	12,645	64.8	5.2	2.7%	1.5%	0.6%

## ●尿糖

尿定性 (尿糖)(男性)			
	受診者数(人)	平均年齢	1+以上
H20	12,203	66.4	3.7%
H21	12,280	66.7	3.6%
H22	12,024	67.0	3.2%
H23	3,260	65.6	4.3%
H24	9,315	66.7	3.8%

尿定性 (尿糖)(女性)			
	受診者数(人)	平均年齢	1+以上
H20	14,984	65.9	1.2%
H21	14,698	66.1	1.0%
H22	14,248	66.2	0.9%
H23	4,531	63.4	1.6%
H24	12,618	64.8	0.9%



# 平成23・24年度県民健康管理調査「健康診査」結果解析(抄)

脂質代謝異常(LDL-C、中性脂肪)は、平成23年度に比較して平成24年度は全般的に低下したが、平成20～22年度に比較すると男性の中性脂肪高値の割合が依然やや高かった。

## ●LDL-C

LDL-C (mg/dL) (男性)					
	受診者数(人)	平均年齢	平均値	120 mg/dL以上	140 mg/dL以上
H20	12,217	66.4	116.4	45.5%	22.3%
H21	12,290	66.7	116.2	45.3%	21.5%
H22	12,031	67.0	115.0	43.2%	20.7%
H23	3,268	65.6	120.8	50.5%	26.6%
H24	9,325	66.7	116.7	45.4%	21.7%

LDL-C (mg/dL) (女性)					
	受診者数(人)	平均年齢	平均値	120 mg/dL以上	140 mg/dL以上
H20	14,994	65.9	126.4	59.0%	33.4%
H21	14,705	66.1	125.4	58.1%	31.4%
H22	14,272	66.2	124.2	56.4%	30.2%
H23	4,554	63.4	128.0	58.7%	33.8%
H24	12,645	64.8	124.4	54.2%	29.0%

## ●中性脂肪

中性脂肪 (mg/dL) (男性)					
	受診者数(人)	平均年齢	平均値	150 mg/dL以上	300 mg/dL以上
H20	12,217	66.4	118.1	21.1%	3.0%
H21	12,290	66.7	116.2	21.4%	2.9%
H22	12,031	67.0	116.1	20.6%	2.9%
H23	3,268	65.6	134.0	29.0%	4.5%
H24	9,325	66.7	122.3	24.1%	3.5%

中性脂肪 (mg/dL) (女性)					
	受診者数(人)	平均年齢	平均値	150 mg/dL以上	300 mg/dL以上
H20	14,994	65.9	105.1	15.8%	1.2%
H21	14,705	66.1	103.4	14.7%	1.2%
H22	14,272	66.2	103.2	14.5%	1.1%
H23	4,554	63.4	109.0	17.1%	1.7%
H24	12,645	64.8	105.4	15.5%	1.3%

# 平成23・24年度県民健康管理調査「健康診査」結果解析(抄)

肝機能異常(AST、ALT、 $\gamma$ -GT)は、平成23年度に比較して平成24年度は全般的に低下したが、平成20～22年度に比較すると依然高かった。

## ●AST

AST (IU/l)(男性)					
	受診者数(人)	平均年齢	平均値	31 U/l以上	51 U/l以上
H20	12,217	66.4	27.7	24.5%	3.1%
H21	12,290	66.7	27.0	21.6%	2.8%
H22	12,031	67.0	26.5	20.9%	2.8%
H23	3,268	65.6	28.3	27.2%	5.2%
H24	9,325	66.7	28.2	25.7%	4.3%

AST (IU/l)(女性)					
	受診者数(人)	平均年齢	平均値	31 U/l以上	51 U/l以上
H20	14,994	65.9	24.6	13.0%	1.6%
H21	14,705	66.1	23.9	11.1%	1.4%
H22	14,272	66.2	23.7	11.3%	1.3%
H23	4,554	63.4	24.1	14.1%	2.8%
H24	12,645	64.8	24.5	13.8%	2.5%

## ●ALT

ALT (IU/l)(男性)					
	受診者数(人)	平均年齢	平均値	31 U/l以上	51 U/l以上
H20	12,217	66.4	23.8	17.7%	4.3%
H21	12,290	66.7	23.4	17.0%	4.0%
H22	12,031	67.0	22.8	16.3%	3.8%
H23	3,268	65.6	29.0	30.6%	11.0%
H24	9,325	66.7	26.9	25.0%	7.7%

ALT (IU/l)(女性)					
	受診者数(人)	平均年齢	平均値	31 U/l以上	51 U/l以上
H20	14,994	65.9	19.4	8.8%	1.8%
H21	14,705	66.1	19.0	8.2%	1.8%
H22	14,272	66.2	18.6	8.1%	1.7%
H23	4,554	63.4	21.2	14.4%	4.4%
H24	12,645	64.8	20.7	12.1%	3.9%

## ● $\gamma$ -GT

$\gamma$ -GT (IU/l)(男性)					
	受診者数(人)	平均年齢	平均値	51 U/l以上	101 U/l以上
H20	12,217	66.4	46.8	23.7%	7.9%
H21	12,290	66.7	46.5	23.4%	7.5%
H22	12,031	67.0	46.2	23.1%	7.5%
H23	3,268	65.6	53.6	31.3%	10.7%
H24	9,325	66.7	51.5	28.9%	9.4%

$\gamma$ -GT (IU/l)(女性)					
	受診者数(人)	平均年齢	平均値	51 U/l以上	101 U/l以上
H20	14,993	65.9	23.9	5.9%	1.1%
H21	14,705	66.1	23.6	5.5%	1.1%
H22	14,272	66.2	23.7	5.4%	1.1%
H23	4,554	63.4	27.3	9.6%	2.1%
H24	12,645	64.8	26.1	8.3%	2.0%

## 平成23・24年度県民健康管理調査「健康診査」結果解析(抄)

- このような変化の要因を考察すると、平成23年度は余儀なくされた避難生活による運動量の減少やアルコール多飲などを含む食生活の変化、精神的ストレスや睡眠障害に伴う生活環境全般の変化などの可能性が推測されたが、平成24年度は生活環境全般がやや改善された可能性がある。
- しかし、今回比較した平成20～22年度と平成23・24年度の受診者では、対象地域や受診者年齢層が異なっていることから、元々の母集団の相違の問題が存在するなど、多くの修飾要因が存在するため、このような解析では平成20～22年度と平成23・24年度との厳密な意味での比較はできない。

# 平成24年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査」結果暫定版概要①

## 1. 目的

平成23年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査」の結果を踏まえ、引き続き質問紙による調査を実施し、「見守っている」、「支援している」という強いメッセージを継続的に発するとともに、状況の変化やその要因を把握することにより、さらなる支援につなげることを目的として平成24年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査」を実施した。

## 2. 対象

平成24年度の対象は、平成23年3月11日時点で国が指定する避難区域等の住民及び平成24年4月1日までに生まれた方であり、具体的には、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、南相馬市、田村市、川俣町の全域及び伊達市の一部(特定避難推奨地点関係地区)の市町村に住民登録があった方、211,615人を対象とした。

0歳～3歳用 : 平成21年4月2日から平成24年4月1日までに生まれた方 4,625名

4歳～6歳用 : 平成18年4月2日から平成21年4月1日までに生まれた方 5,047名

小学生用 : 平成12年4月2日から平成18年4月1日までに生まれた方 11,413名

中学生用 : 平成9年4月2日から平成12年4月1日までに生まれた方 6,023名

一般用 : 平成9年4月1日以降に生まれた方 184,507名

## 3. 方法

上記対象に対して、上記区分に従い、調査票(自記式または保護者回答)を郵送した。

## 4. 集計対象

平成25年2月7日から平成25年2月28日までに回答し、平成25年7月19日までにエントリー入力を終了したデータ52,116件。

## 平成24年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査」結果暫定版概要②

### 5. 結果

暫定版において集計対象とした有効回答数(有効回答率)は、0歳～3歳が1,804人(39.0%)、4歳～6歳用が1,905人(37.7%)、小学生用が3,974人(34.8%)、中学生用が1,796人(29.8%)、一般用が39,495人(21.4%)であった。

調査票ごとに、各項目について結果を集計した。

(この集計の数値は暫定値であるため、今後報告する確定版とは数値が異なる可能性がある。)

### 6. 平成24年度調査の集計 暫定値のまとめ

- 子どもの情緒と行動に関するアンケート(SDQ)について、年齢が低くなるほど、基準点以上(16点以上)の割合が高くなる傾向がみられた。いずれの年齢層においても女児・女子(4歳～6歳:14.5%、小学生:13.2%、中学生:12.2%)よりも男児・男子(4歳～6歳:18.8%、小学生:18.3%、中学生:13.4%)の方が、基準点以上の割合が高い傾向がみられた。
- 全般的な精神健康状態(K6)、トラウマ反応(PCL)について、年齢が高くなるほど、基準点以上(K6:13点以上、PCL:44点以上)の割合が高くなる傾向がみられた(K6:10代7.9%→70代以上14.1%、PCL:10代6.5%→70代以上27.7%)。また、男性(K6:10.0%、PCL:16.6%)よりも女性(K6:13.5%、PCP:19.6%)の方が、基準点以上の割合が高い傾向がみられた。

※SDQ (Strength and Difficulties Questionnaire) は、英国を中心に北欧やドイツなどヨーロッパで広く用いられており、子どもの困難さ(difficulty)のみならず、強み(strength)も評価できる。質問項目は、攻撃的行為、多動、情緒、仲間関係、社会性の5分野、計25項目からなる。

※K6 は米国のKesslerらによって、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、一般住民を対象とした調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として広く利用されている。

※PCLはDSM-IVの17症状により構成された自記式質問紙

# 平成24年度「妊産婦に関する調査」中間報告①

## 1. 実施状況

平成24年度「妊産婦に関する調査」においては、対象者を①平成23年8月1日から平成24年7月31日までに県内で母子手帳を交付された方、②その期間内に県外で母子健康手帳を交付され、県内で妊婦検診や分娩をされた方とした。

平成24年12月中旬以降、14,516件を発送した。

## 2. 調査の主な集計・分析

### (1)回答者数について

- 6月30日時点の回答者数(回答率)は6,913件(47.6%)であった。
- 地域別にみると、県北地域1,780人(53.2%)、県中地域2,002人(47.2%)、県南地域540人(46.4%)、相双地域492人(43.0%)いわき地域1,150人(45.7%)、会津地域777人(42.0%)、南会津地域77人(49.0%)、県外95人(99.0%)であった。

### (2)妊婦結果

- 全県で流産の割合(0.79%)、中絶の割合(0.09%)は前年度と変わらなかった。
- 早産の割合は5.86%で、前年度4.75%より高かった。
- 単胎における先天奇形・異常の割合は全県で2.32%であり、前年度(2.74%)同様、一般的な発見率(3~5%)とほぼ同様であった。一番多かった疾患は、心臓奇形0.80%であった。

### (3)母親のメンタルヘルス

- 全県でうつ傾向は25.6%であり、前年度の27.1%を下回った。前年度と同様に、相双地域で32.1%と一番高かった。一方、うつ傾向が一番低かったのは南会津地域であった(18.2%)。
- 参考までに健やか親子21(母子保健の国民運動計画)によると、エジンバラ産後うつ指標を用いて評価した産後うつの割合は10.3%(平成21年)であった。

## 平成24年度「妊産婦に関する調査」中間報告②

### 2. 調査の主な集計・分析(つづき)

#### (4)家庭と育児の状況

- 避難中(仮設、仮設以外含む)の割合は、相双地域で高かった(61.5%)。
- 子どもの栄養方法は、母乳のみ35.3%、ミルクと母乳の混合54.2%、ミルクのみ9.9%と、母乳のみの割合が前年度(30.4%)よりも高くなった。ミルクを使った理由は放射線の母乳への影響の心配が6.2%であり、前年度の19.8%を下回った。
- 育児の自身があると答えた割合は46.0%であった。参考までに平成22年乳幼児健康度調査によると、児が1歳時に育児の自身がある割合は40.5%であった。

#### (5)医療の質

- 全般的なケアを十分してもらったと回答した割合(「とてもそう思う」「そう思う」の合計)は、8割を超えた(81.3%)。
- 予定をしていた施設で妊婦健診・分娩を継続できなかった割合は、全県で14.2%であり、前年度24.6%を下回った。継続できなかった地域は、前年度は相双地域72.8%、今回は県外28.4%が一番高かった。自分で県外に変えた人は25.1%と前年度(54.7%)より減少した。
- 妊婦健診を予定通りに受診できなかった割合は全県で2.3%であり、前年度(18.8%)より減少した。妊婦健診が予定通りいかないことによる影響があったとの回答は、全県で26.5%であった。

## 平成24年度「妊産婦に関する調査」中間報告③

### 2. 調査の主な集計・分析(つづき)

#### (6)次回妊娠

- ・ 次回妊娠を希望する割合は52.7%であった。参考までに平成22年第14回出生動向基本調査によると、結婚10年未満の夫婦で子どもを予定している割合は58%(既に子どもがいる場合に限ると51%)であった。
- ・ 次回妊娠希望者が求めるサービスとして、「育児や小児医療に関する情報やサービス」が70.3%と一番多く、次いで「保育所・延長保育・病児保育などの拡充」が65.7%であった。
- ・ 次回妊娠を希望しない理由としては、「希望していない」が46.5%と最も多く、続いて、「今いる子どもに手がかかる」が35.6%だった。「放射線の影響が心配なため」の割合は、14.9%であった。

#### (7)電話支援状況

- ・ 電話支援の総数は1,059件であり、支援理由はうつ傾向が726件(68.6%)、自由記載内容が333件(31.4%)であった。
- ・ 相談内容は、母親の心身の状態に関することが33.1%と一番多く、次に子育て関連のこと(26.7%)であった。前年度に一番多かった放射線の影響や心配に関することが占める割合は、29.2%から23.4%に減少した。

#### (8)自由記載

- ・ 自由記載欄に記入したのは1,430人(20.7%)であり、前年度3,722人(40.0%)より減少した。
- ・ 記載内容で多かったのは、前年度(29.6%)と同様、胎児・子どもへの放射線の影響について(26.1%)であった。